

兵庫県北部・西部水害の救援活動

都市生活コミュニティセンター 事務局長 福田和昭

8月9日夜からの豪雨で、兵庫県北部・西部で大規模な水害が発生しました。都市生活コミュニティセンター（以下、TCC）では、事務局スタッフが物資の輸送や救援活動に当たったほか、8月21日には西宮・三宮から佐用町行きのボランティアバスを運行致しました。今号ではこの救援活動の報告を掲載致します。



■水害発生

発災直後は、豊岡での被害も伝えられたので、2004年の台風23号水害の際にボランティアバスを派遣した出石町日野辺地区に状況を確認しますが、今回は被害がないとのこと。

一方、県西部の佐用町での被害が大きいことから、救援ボランティア活動が始まることを見越して、生協連合会きらりに対して、支援金カンパの呼びかけをお願いしました。

■被災地へ入る

13日（木）、被災地 NGO 協働センターの村井雅清代表から、断水中の避難所へ水を運ぶタンクの協力依頼がありました。生協都市生活を通じて生産者に呼びかけ、翌14日に1.6トンの水が被災地に届けられました。

また14日と16日、20日の3回、事務局スタッフを現地に派遣。NGO 協働センターや現地のボランティアセンター（以下、ボラセン）を通じて物資の搬送や救援活動に当たりました。

現地の様子から、盆休み明けの平日

は人手が不足することが予想されました。このためTCCでは21日（金）にボランティアを募って、被災地に派遣しました。TCCの会員・賛助会員と、生協都市生活の組合員に参加を呼びかけ、6名が参加しました。

岡部真紀子（神戸市中央区）

行きたい!行かなくちゃ!と思っていた佐用町にやっと行ってきました。私たちが行った21日は平日の金曜日とあってか、ボランティアが全然足りないという状況でした。佐用川に沿った平福地区へと向かい、佐用町社会福祉協議会（以下、社協）をはじめ神戸の社協の方たち4人と私たち6人が10日経った今の被災者の状況やニーズの聞き取りを行いました。川上と川下に別れ調査を開始したのですが、川上の方は大体泥出しも終わり少し一息といった様子でしたが、時代劇宿場町のような街並みの川下の方はというと風景が一変し、まだまだ復旧作業に人手が足りない現実に胸が詰まりました。5年前の出石の時もそうでしたが、震災より水害は後処理が大変で被災地は全てにおいて何もかも足りません。募金カンパでも衣料品を送るでも構いません、何かの形で被災地佐用町に温かい真心を届けて下さい!私としてはもう一度佐用町に出向いてお手伝い出来たらなと思っています。

川淵啓司（神戸市北区）

阪神淡路大震災の際にほんの少し活動をした経験しかないのと、年齢を考えて、若干心配しながら参加しました。最初に到着したのがボラセンとなっている佐用高校で、ここは社協の若いメンバーが中心となり活動の需給の情報収集、手配などのマッチングを行っていました。近隣からの応援が中心ですが遠方の岩手県からのメンバーも何人かいました。学校の休み中でもあり学校関係の団体、家族の方、アラ60の方、金髪の若者など多彩なメンバーが来ていました。

我々6人の分担は、社協の方と平福地区の各家を訪問して、家族の方の健康状態、現在の修復状況、今後のボランティアが必要かどうかなどの聞き取り調査をしました。平福地区は旧因幡街道の宿場街でその街並みとその裏の川沿いの川屋敷、川座敷、土蔵群が観光スポットとなっていたのですが、川の氾濫で土蔵の白壁は剥げて無残な状態となっていました。又、家の方は、床上・床下浸水などで流木、土砂、泥が庭だけでなく家の中にまで入って大変な状態だったのが、ボランティアの応援もあり、何とか生活ができる状態まで回復しているようでした。各家とも老人の方が多いのですが、ショックと疲れでダウンしているのかと思っていましたが、案外腰がすわり、開き直っ



て、「まあ何とかします」と言っている人も多くいました。又、共通して言葉にしていたのが、ボランティアの方への絶大なる感謝と、もっと大変な家があるからその家の方から応援して下さいという思いやりの気持ちでした。私も時間に余裕を持つことができる年代になり、今後とも少しは社会に恩返しができることを力まずにやっています。

西村京子 (尼崎市)

バスから見える景色で、まず驚いたのは川沿いの木の根元が無残にも削られた姿でした。至るところ泥だらけで曇り空のせいもあるのか、重く沈んだ空気が私の心にも入り込んできました。現地では私達が割り当てられたのは、復旧の手が行き届いているのか現状を調べたいという佐用町社協の要望で、神戸市社協の方たちと被災者宅の聞き取り調査の同行でした。当時の状況や今後の要望を聞いて回りましたが、当時の話は本当に恐ろしいもので、思わず涙してしまう時もありました。『星の町』と呼ばれるこの地域の人たちが、ゆっくりと星を眺められる普段の生活に戻るまでまだ大変で、たくさんの方の手があると実感しました。

前川耕造 (尼崎市)

ホームセンターで長靴とゴム手袋を買い出発。しかしボラセンでの指示は「聞き取り活動」。少々がっかりするとともに、被災者の方たちとうまくコミュニケーションが取れるのだろうか、と不安な気持ちで被害の大きかった平福の町へと出かけた。既に10日も経過しているのに、まだ家の

中からの泥出し作業等が多くのボランティアの力を借り進行中、泥出しが終わっても今後住み続けられるかどうか不安な家も残っていた。「建替える力は私にはない。この家で生まれ育ったのだからこれからもここで暮らしたいけれど...」と力なく話す人が印象深く残る。車窓から何事もなかったかのような水田の稲もよく見ると穂先にはたくさんのごみがついていたり、水田には泥が堆積していた。長閑な田園風景や歴史を伝える町並みを復興させるには、地元の人々の力だけでは足りないのに、彼らの多くは私たちの支援を心

積み木ワールド
at ソーシャルコート神戸北



今回初めて会場を西宮から出て北区ソーシャルコート神戸北での開催となりました。午前5組17人・午後は4組13人で遊びとても楽しく素敵なおワールドを創り上げました。

今回ソーシャルコート入居の方5人ほどが応援団で参加され、小さな子どもたちに声掛けや拍手を送って下さった事はとても微笑ましくまた子どもはもとろんパパ・ママにとってもうれしい光景だったようです。こういう多世代が交流出来る場は今では少なく、とても貴重な空間ではないかと思いまし

苦しく感じていた、自分たちのせいでもないのに。

■今後の活動

災害ボラセンは8月末で終了し、9月以降は高齢者の訪問などに活動をシフトしています。また被災地 NGO 協働センターや神大学生救援隊などは、足湯隊を被災地に派遣し、継続して被災者の支援を続ける方針です。

TCC では生協連合会きらりにを通じて支援金カンパを呼びかけています。今後、支援活動の展開があれば、またお知らせしていきます。

た。大人であるパパ・ママが真剣に積み木に挑戦している姿から何かを感じ取って子ども達はそれを純粋に受け止めて真似したりします。いつも感じる事ですが、子どもにとって特にパパのそんな姿が見られる事はとてもラッキーで貴重な体験だと思います。

ソーシャルコートの素晴らしい環境と素敵なお木の温もりが積み木ワールドにピッタリマッチングしたようで評判もよくまた9月にもここで開催することになりました。(岡部真紀子)

ソーシャルコート 夏祭り 7月26日、地域の方々を招いて夏祭りを開催しました。



2009年☆介護保険事業報告

●現在、「あ・し・す・と(垂水)」「あしすと武庫之荘(尼崎)」の2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業、障害福祉サービス事業を行っています。●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)も行っています。

